

平成22年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」  
QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践  
事業実績外部評価報告書

I. 平成22年度の本事業専門職間連携教育用カリキュラムの開発について

新潟医療福祉大学の4年間をわたってのIPEカリキュラムは報告書に明示されており、学年を重ねてのステップバイステップの「螺旋」型カリキュラムが学生一人ひとりの学習を支えるものと評価できる。連携校のIPEカリキュラムの全貌は、残念ながら報告書には十分記載されていないために、「大学間連携GP」として連携大学同士がお互いの利点をカリキュラムにどのように活かしているのかが分からなかった。

新潟医療福祉大学のカリキュラム開発に、英国、オーストラリアの医療系大学の取組が活かされており、国際的なカリキュラム開発として高く評価できる。

II. 戦略的大学間連携の推進について

大学連携としてのE-learningを用いたモジュールでの学習、ファシリテーター養成での他大学教員との共修、テレビ会議での意見交換はもとより、連携大学のメンバーにより本GP推進のための多数の委員会が開催され、これら大学間連携活動が参加大学の教員にとってのFDとなっている。学生だけでなく、教員もこの大学連携による相互啓発を受けている。しかしながらこの大学間連携が職員レベルには十分適応されていないように感じる。カリキュラムを支える大学職員（学務系、IT系など）も大学間連携による相互啓発の場を作っていく必要がある。

III. 質の向上度についての総合的な評価についてA～Cに○をつけてください。

A. 「大きく改善向上している、高い質（水準）を維持している」

B. 「相応に改善・向上している」

C. 「改善・向上しているとは言えない」

IV. 評価結果の判断理由

取組は当初計画の柱、①モジュール開発、②ファシリテーター養成、③学習評価のための指標の標準化、④ITを使った遠隔地での学生の学習支援、⑤IPEの教育実践それぞれが着実に進められている。各種委員会活動も活発で、本大学連携がJAIPEという学会と連携を持つことで、本取組の成果が広くわが国の医療系大学にも紹介されていることは高く評価できる。

しかしながら、取組大学の学生にどのような学習成果が得られたのかの検討が不十分である。授業参加学生に授業アンケートを取るだけでは、いわゆる「満足度」調査にしかない。IPEを受けた学生が、受けていない学生に比どのような能力が身につけているのかを明示する試みが必要である。この学習効果測定は学生だけでなく、ファシリテーター養成コースに参加した教員や、授業に参加した教員をも対象に行われるとさらに良いものになるであろう。学習成果測定に不十分な点があるため、総合評価を「B」とした。

## V. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

### 1. 優れた点

- ①英国、オーストラリアなど IPE 先進国での授業実践を調査研究し、現実的に IPE をそれぞれの大学のカリキュラムに取り入れていること。
- ②各種委員会の活動が活発で、委員会活動が参加大学の教員の FD になっていること。
- ③ファシリテーターのガイドを作成しているが、このガイドは他大学の IPE 導入にとっても役に立つ資料である。
- ④本 GP の活動を JAIPE などの学会を通じて全国に発信している。

### 2. 改善を要する点

- ①学生の学習成果測定を行う必要がある。
- ②教員がこの取組でどのように変化しつつあるのかを調査する必要がある。
- ③大学職員のための SD を組んでいく必要がある。
- ④教材であるモジュールが報告書には載せられていない。本取組でモジュール開発（教材の質）は最も重要な課題である。教材の質を外部評価者が評価できるようにモジュールを報告書に載せるべきである。
- ⑤連携大学の IPE 実践、特に本 GP でどのようにその実践が向上しているのかを報告書に示すべきである。
- ⑥IPE を臨床実習の場でどのように行うかの検討が必要である。

### 3. 特色ある点

連携大学で開発したカリキュラム、教材、ファシリテーター養成法を全国の大学に広めようとしている。外国の事例を分かりやすく紹介し、我が国の他の大学に貴重な情報を提供している。

ご署名 福島 統

